

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500271		
法人名	株式会社ケア・コスモス		
事業所名	グループホーム コスモス細谷		
所在地	群馬県太田市細谷町1343-1		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年3月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気を大切に夏祭りなどのイベントの際はコロナ禍ではありましたが感染対策をおこないご利用者様のご家族様を呼び、とても楽しい時間を過ごしていただきました。日々のケアやアクティビティに対しても「ご利用者様の自信につながる」をコンセプトに職員とご利用者様とが楽しみながら生活ができるよう支援を日々おこなっております。クリスマスなどのイベントには「何が食べたいか」「何が行きたいか」など職員がご利用者様のニーズを尊重し企画などをおこなっています。また生活面での安心安全の観点では同敷地に隣接する介護付有料老人ホームの看護師との情報の共有、連携を図り必要時には病院への付き添い送迎などもサポートしております。ご利用者様の把握等、概ね月に1回のミーティングを行ない個別カンファレンスをし議事録として残し情報の共有化をし、ご利用者様が安心して暮らせるようケアをおこなっています。

法人が有料老人ホーム等他のサービスを運営している為、利用を希望する人の状況に適した施設を紹介することができるメリットがある。看取り支援後に、残された夫について家族から相談があり、管理者が介護保険の相談や入居施設の紹介をしたことがある。残された家族の為の支援もまた事業所の意義ある使命といえる。また、コロナ禍で地域との交流や日常の外出等、これまでできていたことが中断され、現在もなかなか以前の関係性に踏み出せないことがあるが、それでも事業所内で祭りを開催し、利用者が家族と一緒に楽しい時間を過ごしたり、ドライブに出かけリフレッシュすることができた。事業所、職員がコロナ禍前に戻れるよう社会状況を見ながら一歩踏み出すことが、利用者と家族の思いに沿った支援となることがわかった。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームコスモス細谷理念を職員一同理解し日々の業務に展開している。	介護経験がない新入職員もいる為、入職時のオリエンテーションで理念や認知症に対するケアについてレクチャーしている。現任者は理念に基づいて、日々利用者への個別ケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中止(書面開催は実施)やコロナ感染予防のための自粛等もあり昨年に続き交流の機会は少ない状況である。	コロナ禍前は区長からも連絡があり、隣接する会社や地域の祭に参加し、山車が立寄ることもあった。現在は地域に寄り添うことも難しくなっており、地域との関係性を考えながら運営している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民からの施設利用までの相談や認知症状についてのアドバイスなど来館があり対応をしている実績がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今期中止の状況下ではあるがサービス運営状況やレクリエーションの取り組み等を記載し、市役所や地域区長などに配布をしている。	隔月で書面開催とし、運営状況、行事(レクレーション)その他の報告の中で利用者との企画し、リクエストに応じて提供した食事について、また、地域との連携についてまとめた会議録を関係者に配付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上記のとおり運営推進会議の会議録を2か月に1回市役所介護サービス課へ提出し、担当者とのコミュニケーションを図っている。	運営推進会議の会議録を直接届けている。介護保険の更新代行、市の調査員による認定調査の立会いをしている。また、感染症対策用品が不足し介護サービス課から防護服を調達してもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の開催や定期研修会を開催し、身体拘束に繋がる前段階での対応力などを養えるようしている。また身体拘束テストなどをおこない、理解力の確認なども行っている。	玄関は開錠しており、その他の拘束はない。スピーチロックについては身体拘束テストで習練度、習得度を高める取り組みをしており、3ヶ月ごとに勉強会を行い、実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の指針を整備し虐待に繋がる不適切ケアへの意識や知識の向上を図る。令和6年より虐待防止の為に委員会や研修も実践予定としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近ではご利用者のご家族(姪)様より相談があり「ほほえみの会」をご紹介し身元引受人の契約締結をおこなった。今後も担当者との連携が図れるようコミュニケーションをとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まずは施設見学を一番にしていたが施設の雰囲気や働いているスタッフを見ていただく、その後に入居の意向がある場合、契約内容やサービス内容の説明をし、ご本人のアセスメントをおこない相互が理解した状態で入居していただく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話窓口でのご家族様との対応や、必要に応じ対面での相談や要望を伺い、職員やご利用者様へのサービスに反映をさせていただいている。毎月コスモス通信を発行しご家族様へ運営活動の把握をしていただけるように取り組んでいる。	利用者の「家に帰りたい」という気持ちに対して、家族の声を聞かせたり、顔を見せてもらう等利用者の要望に沿った対応をしている。家族とは面会時や電話で話し、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な2者面談や評価をおこなっている、問題等がある場合は管理者が当該職員と面談をおこない方向性を示すなどしたり、逆の場合は会社に職員の提案などを伝える事をおこなっている。	日頃から管理者は職員の相談を受けたり、会話をする機会がある。ミーティングでは利用者への支援方法や注意点等について話し合い、情報を共有する他、法人からの情報伝達の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季・冬季には情意評価をおこない職員の自己評価・管理者評価をしている。面談も適宜おこない職員のニーズや逆に会社のニーズなども伝えあい相互理解に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者などが業務をおこないながら資格取得が出来るようバックアップをおこないキャリアアップにつながるような体制作りをおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に入会しているが、コロナ過の為、研修や入会施設の管理者等との交流が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報やフェイスシートを事前に確認、また入居したご本人の心身の状況を確認しながらまずは安心ができる関係作りを一番に考えコミュニケーションを図るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設生活を誰もが好きで望んでいる訳ではない事をベースに考え、ご本人様ご家族様が不安に感じている事を傾聴し、安心できるような関係性を築くアプローチをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に聞き取りを行ない、入居の妥当性の確認を行ない、他のサービスを導入した事例はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性でもあるアットホームな雰囲気大切に、同じ立ち位置で支援ができるような関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が欲しい物、食べたい物などを聞きご家族様に連絡、差し入れなどをしていただいている。差し入れ時には会話もできるような配慮しご家族様との絆もコロナ過ではあるがなるべく大切にできるよう支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過ではあるが、なるべくご入居者様とご家族が少しでも会えるよう努力をしている。夏祭りなどはご家族様やお孫様なども参加をしていただき家族と一緒に楽しめる機会を提供している。	事業所内で夏祭りを開催し、孫やひ孫の出席もあり、家族が皆集まって楽しむことを大切にする取り組みをしている。また、「おはき作り」等、その日の状況に応じて馴染み深いレクリエーションに取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を観察し適切な座席の配置などをおこないコミュニケーションが円滑に図れるよう適切な配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入居していた配偶者様より将来に対しての不安の相談があった、管理者が対応し傾聴、介護サービスの説明や将来的なサポートにつながるNPO法人などのお話もさせていただいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、本人の様子や介護記録、家族からの話を聞いて、思いや要望を把握してケアに反映させている。	アセスメントで利用者や家族の意向を把握している。また、日常的に利用者と接する中で、利用者本人の思いや意向を推し測り、レクリエーション等の活動や生活上の支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に相談員やご家族、医療ソーシャルワーカーより、話を伺いフェースシートにまとめて職員に周知させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日報や経過記録、会議時に入居者のカンファレンスを行ない、職員間の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズを踏まえて、職員や関係者と連携して介護計画の作成や見直しを行なっている。	毎月モニタリングをし、3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。また、更新時には担当者会議を開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や日常生活記録をまとめて、毎月のモニタリングや3か月毎に評価を行ない、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レクリエーションや食レクを積極的に取り入れて、ニーズに応じた食事等の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等に以前は参加していたが、コロナ過もあり今年は参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に嘱託医による医療サービスの説明をしそのメリットやデメリットの判断をご利用者様にさせていただいている。整形外科や眼科など嘱託医以外での受診が必要な場合は送迎や同行を含めご家族様と連携し支援をおこなっている。	契約時に主治医を示し、24時間のオンコール対応、総合病院を紹介、看取り支援ができる等のメリットを説明し、理解した上で協力医の月2回の往診を受けている。歯科は毎週訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常ケアをしている中でのご利用者様の身体・精神的変化を介護職員は観察し、必要性があると判断した場合は適宜看護師へ報告をおこない処置や通院の必要性を判断し支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた場合など地域医療連協室の担当ソーシャルワーカーと連携を図り身体状況の把握に努め、スムーズな退院が出来るよう取り組みをしている。また、定期的な地域医療連携室への訪問をおこないその関係性の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の説明をおこないまずはその方向性を確認している。終末期に近づいた際にはご本人やご家族様と再確認をし医療・介護・家族と連携しその人らしく終末を迎えられるよう支援をおこなっている。	重度化指針があり、利用者や家族の希望に沿って、主治医の判断により看取り支援に取り組んでいる。看取りの際は家族との居室での面会や日々の状態の報告をし、事後は振り返りもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートを職員室の見やすい場所に掲示している。管理者をはじめケアマネ、看護師、嘱託医等の連絡先も同時に掲示し緊急時の慌てぬ対応が出来るように配慮している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練の他、日常においても簡単ではあるが火災や地震などがあつた際の避難を施設内で開催している。	コロナ禍で消防署の立会いはないが、日中火災を想定した年2回の自主訓練を実施している。2～3日分のレトルト食品、排泄用品等の備蓄がある。	法定の訓練の他、玄関までで良いので、毎月自主訓練をし、その時の利用者の状況を把握したり、避難方法の習得に努め、いざという時に役立ててほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のご利用者様の性格傾向などを把握しその人にあった声掛けや対応をするようになっている。	利用者一人ひとりを尊重し、フェイスシートにある生活歴や現在の生活状況を理解した上で、その人に合った声かけをしている。入室時には了解を得ること、呼称はさん付けを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション活動においては食事会のメニューやどんな制作物が作りたいかなどご利用者様の希望や要望を聞き取りニーズにあったサービスを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のADLや認知症の進行状況に応じた個別ケアを大切に、日々の支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お部屋に三面鏡がある方などもいらっしゃる、整髪やちょっとしたお化粧品などもするので、整容などの支援を側面から提供できるよう介護者はおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の自身につながることを考え、お料理レクなど包丁を使用できるご利用者様には具材をカットしていただくなどアプローチをし一緒に料理が出来るようおこなう。また片づけなども積極的におこなっていたい。	食事は法人全社の食事を提供している会社に依頼している。料理レクリエーションでは利用者と企画したものやリクエストに応えたマグロ丼やけんちん汁等のメニューで食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の割合を記録、体重を計測し推移をモニタリングしている。食事摂取量が少ない方などにはご家族様に連絡し嗜好品の差し入れを持ってきていただき接種量の維持を図る		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず食事後は声掛けをおこない口腔ケアを行っている、個人の残存機能を生かしたアプローチをしケアに介入するポイントや介助の量を個別化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスにてご利用者様の排泄自立度を個々に把握しその人に合った適切な声掛けや誘導を支援するよう心掛けている。	職員は利用者がトイレに行き、排泄をしてほしいという思いで支援にあたっており、おむつやパットを使用しているもトイレ誘導の声かけをしている。異性介助になる場合は、了解を得るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のカウントをおこない便秘日数のモニタリングをおこない運動への働きかけや水分補給の促し声掛け等、工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については個々の状況に応じ対応をしている午前中に固定をするわけではなく午後に入浴をしていただくこともある。また介護度が高い方には隣接している有料老人ホームの機械浴を使用することもある。	入浴日は決まっているが、利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。拒否があった際、家族に立ち会いを依頼したり、レクレーションの為に時間を変える、気持ちいいですよと声かけをする等工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休憩をしたいご利用者様にはお部屋にて休息がとれるよう配慮をしたサービスを心掛けている。夜間などは安眠を邪魔せぬよう巡視などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をもとに、朝・昼・夕・就寝前の薬を分けて服薬支援を行っている、服薬時には職員が日にちや氏名を読み上げ誤薬などが無いよう気をつけて支援をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年も年間を通し様々なレクリエーション活動をおこないご利用者様のストレンスを引き出してきました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気が良い日などには希望するご利用者様に屋外への散歩などを職員と一緒に出かけリフレッシュをおこなっている。また秋には大光院に外出し菊祭りを鑑賞するなど地域インフラの活用をおこなっている。	コロナ禍で日常的な外出は難しかったが、季節ごとに市内の菊祭りや桜を見に出かけ、リフレッシュを図っていた。コロナ禍前に戻る為の支援を課題としている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活保護のご利用者様にもお金を持ち使用する大切さ、楽しさを享受できるよう工夫をしながら買い物や自動販売機などで飲料を購入するなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーションをご利用しご家族様への残者見舞いやメッセージ付きクリスマスカードなどの作成をしご家族とのコミュニケーションに繋げている。もちろん電話をかけたい時に事務所の電話を使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどの共用空間には暑さ寒さが無いようエアコンにて室温を管理、光源などもカーテンで調整しご利用者様が過ごしやすい空間としている。またレクで作った季節の制作物などを玄関などにレイアウトしアットホームな環境作りをおこなっている。	利用者がホールから居室の間を行き来する自由な空間となっており、大きな手作りのカレンダーや廊下の壁に絵が飾ってある。玄関には完成度の高い手作り作品が飾られ、職員の工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では丸テーブルでご利用者様が対面の全てのご利用者様とお話ができるように配慮している。認知症状が高い方は角テーブルにて職員が横に就き介助をおこなったりコミュニケーションをとれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にはご家族様の意向を聞き持ち込む家具などを選定、またご利用者様にレイアウトなどの意向を聞きソファなどの家具を設置するなど配慮をしている。	入居の際に寝具や鏡台、身の回りの物等、使い慣れた馴染みの物を持ち込むことを説明し、家族に室内のレイアウトを任せ、本人が住みやすい環境作りに協力をしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、廊下には手すりを設置し見通しが良い作りとなっている、トイレも2場所ありご利用者様も自由に使用できるよう見守りも含め支援をおこなっている。		